

# 上島町消防だより

## お花見シーズン到来

### ～山林火災防止について～

4月に入り、桜も見頃になってきました。お花見やハイキング等に出かける方も多くなります。

しかし、春先は、山林火災の件数が多いという統計が出ています。

原因として、風の強い日が多く、火災の発生しやすい気象状態が多いこともあり、入山者によるタバコのポイ捨てやたき火等の不始末が原因と言われています。



上島町での山林火災件数は、昭和52年からの統計によると30件となっており、昭和58年が最も多く、4件も発生しています。

### ◆山林火災の特徴◆

●山林火災は、民家火災と異なり、消防水利や地理的条件等から消火活動が非常に困難となります。

●火災により焼失した森林は、再生するまでに長期の歳月が必要となります。また、大雨などによる土砂崩れ等の災害が発生しやすくなります。

### ◆山林火災防止のために◆

- ①タバコを吸うときは、携帯灰皿を使い、投げ捨ては絶対にしない。
- ②山でのたき火は絶対にやめましょう。
- ③やむをえず、火を使用する時は、消防署へ事前に連絡して下さい。
- ④燃えやすいものの周囲で火を使用しないで下さい。
- ⑤消火器や水バケツを必ず用意しましょう。
- ⑥風の強い日や乾燥注意報の発令されている日は、たき火はやめましょう。
- ⑦終了したら、完全に消えているか確認しましょう。



山林火災は、皆さん一人ひとりの注意で防止できます。町民の皆様のご協力をお願いします。

### 油断大敵



## 高規格救急車配備！

### ～上島町消防本部へ寄贈～

高規格救急車とは、救急救命士が高度な救命処置の実施に伴い、広いスペース、多くの資器材を積載するスペースを持った車のことです。今回、新しく配備された救急車の車内の様子や積載している資器材等を紹介いたします。



### 高規格救急自動車内の様子



救急車内には異物を吸引する電動吸引機やAED、また、心電図波形等を観察する「患者監視装置」を設

置しています。今回は、「患者監視装置」を紹介

### 患者監視装置 (救急隊による観察の様子)



この装置は、傷病者の血圧、体内の酸素量を確認することができ、また、心臓の動きを心電図波形で見ることが出来ます。救急隊は表示される数値や波形を見て、傷病者に適切な処置を行いながら病院まで搬送します。

### 平成19年の出動件数

	火災	救急
2月	0	34
前年2月	0	26
前年比	0	+8
19年累計	0	72

平成19年2月28日現在

火災・救急 119

消防本部 77-3166

消防署 77-4118



# 農業講座

## しまなみ農業だより ゴボウの栽培ポイント

ゴボウはキク科の2～3年生の野菜で、生育適温は20～25℃の高温を好む野菜です。しかし、根<sup>こんぶ</sup>は低温に強く冬季は葉が枯れても春まで畑に残して順次、収穫ができます。根が地中深くまで伸びるため下層まで柔らかい土での栽培に適します。多少、栽培は難しいですが、食物繊維が多く現代の食生活において是非取り入れたい野菜のひとつです。今回はゴボウの栽培ポイントについて解説します。

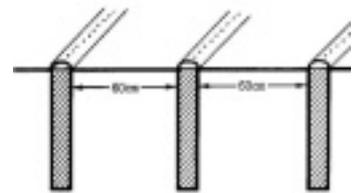
**■栽培作型** ゴボウは春まきと秋まきができますが、春まき栽培は、収穫時期が秋から春まで可能で、栽培しやすい作型といえます。種をまく時期は3月下旬から4月が適期です(表参照)。

表 春まきごぼうの作型

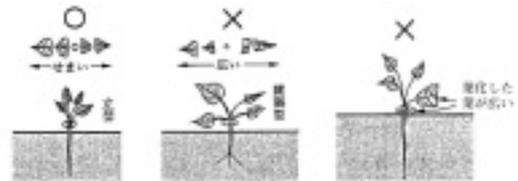
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主要品種
平坦地		○	○								滝の川 柳川理想

○種まき ■収穫

**■畑の準備** ゴボウは地中深く入りますから、最低60～70cmの深さに耕す必要があります。前掘りといい、種をまく畝を深く掘り返し、土を砕き、完熟堆肥を混ぜ合わせて埋め戻します。中性土壌を好むため、種まきの2週間前に苦土石灰を10㎡(2m×5m)当たり1.5kg土と良く混ぜ合わせておきます。さらに、種まきの1週間前に化成肥料を10㎡当たり600g施し、前掘り部分を中心にうねを立てます。



**■種まき方法** 種は、1昼夜水<sup>ひた</sup>に浸し、しっかり水切り後、種をまきます。畝幅60cmに10cm間隔に4～5粒ずつ1cmの深さに種をまきます。



**■発芽後の管理** 1箇所から数本発芽しているときは、本葉が4枚頃(発芽後50日前後)、葉が縦長で、立ち気味の中株を1株残し、他は抜き取ります。極端に大きい株や葉が開いている株は又根<sup>またお</sup>になっている可能性があります。間引き後に化成肥料を株元に少量施し、土寄せを行います。本葉8枚頃に追肥と土寄せをもう一度行います。

**■収穫と気をつけたいこと** 根<sup>こんぶ</sup>径が2cm頃から収穫を始めます。寒くなると葉は枯れますが、根は寒さに強く、畑においたまま、春まで収穫できます。ゴボウは、連作(同じ場所に翌年も植えること)を嫌うため、3年以上は間隔をあげ、また、排水の悪い畑や耕土の浅い場所では寸つまりのゴボウになるので、適地を選んで栽培しましょう。

### 《農薬を使用する際の注意について》

今年度に、県内において適用のない作物に農薬を散布する等の農薬取締法に違反する事例が数件発生しています。

農薬取締法では農薬の使用基準(適用作物、希釈倍数又は使用量、使用時期、総使用回数)が定められており、違反した場合は3年以下の懲役若しくは100万円以下の罰金となります。また、使用基準を守らずに農薬を散布した場合は、食品衛生法における農薬残留基準の超過の恐れもあるため、生産物の全量廃棄処分等の措置がある場合もあります。

今後、農薬を使用する際は、ラベルに記載された使用基準を必ず読んで、使用基準どおりに農薬を使用してください。詳しくは病害虫防除所、今治地方局農政普及課へお問い合わせください。

◎病害虫防除所東予支所 〒791-0508 西条市丹原町池田1611 TEL 0898-68-6774

◎今治地方局農政普及課 〒794-0042 今治市旭町1-4-9 TEL 0898-23-2570